

### CASE STUDY

# TDU

東京電機大学  
TOKYO DENKI UNIVERSITY



### 大学情報システム 「ユーザーサービスとしてのXythos Digital Locker」

どこからでもアクセス可能なバリアフリーなファイル共有環境を目指し、東京電機大学は2006年、キャノンマーケティングジャパン株式会社(CMJ)の支援によりXythos Digital Lockerを導入しました。利用頻度が高く、今や自然とそこにあるような存在となったXythosは、理想のソリューションとして高い評価を得ています。

#### 導入までの背景

情報コンセントと言われるように任意の場所で、自分のノートPCを使いネットワークにアクセスすることが頻繁になったため、総合メディアセンターはネットワークアプリケーションの充実が必要であると考えていました。そして、5年毎の定期的な機材の更新に伴い、大学の基幹網のネットワーク装置をはじめとするリプレース計画が始まりました。このような中、ネットワークに関わるアプリケーションの充実を目的とした新しい試みの一つとして、Xythos Digital Lockerを選択しました。

これまでファイル共有といえば、紙媒体、メール添付、配布・提出専用のWebサイト、Windowsファイル共有といった適時状況に応じた方法で運用していました。これらを利用の容易さ、環境設置の容易さ、リソース使用の効率、物理的な自由度という観点で教員と学生で評価した結果、メールに関しては次のような問題が列挙されました。

- 1) 大きなファイルを送信できない。
- 2) 多数のメールに添付されているファイルが管理できない。
- 3) サーバに同じデータのコピーが存在するため効率が悪い。

この結果を受け総合メディアセンターでは、Webサイト方式とWindowsファイル共有方式を組み合わせることが望ましいという結論に達しました。また、利用範囲を拡大することにより、更なるユーザーサービスの向上へ繋がることを確信しました。

#### Xythos選択の理由

総合メディアセンターのサービスとしては、専用ソフトのインストールはクライアントを限定してしまうため、いくら性能が優れていても望ましくないと考えていました。また、共有サービスの重要な要求事項はプロトコルが標準化されていることでした。

通信プロトコルを評価していくうちにWebDAVへの期待が高まりましたが、オープンソースは日本語使用に難があり、サポートの問題もありました。その頃CMJより紹介を受けたXythosは商用のWebDAV100%準拠製品であり、日本語も問題なく使用可能でした。JAVAベースであるため、プラットフォームに依存しない環境で使用可能なこともわかりました。これらが決め手となり、ユーザにとって汎用的でスタンダードな製品として、2006年導入の大きな目玉になりました。



左：総合メディアセンター(企画・推進担当)  
課長 佐藤 龍様  
右：総合メディアセンター  
(企画・推進担当/鳩山キャンパス担当)  
技師 橋本 明人様

#### お客様プロフィール

名称：  
学校法人 東京電機大学  
TOKYO DENKI UNIVERSITY

創立：1907年(明治40年) 9月11日

大学院：4研究科(26専攻)  
学部：5学部(13学科)  
研究機関：4研究所  
併設教育機関：中学校・高等学校  
学生数：11,748名  
教員数：370名  
所在地：

・神田キャンパス  
(東京都千代田区神田錦町2-2)  
法人・大学本部、大学院先端科学技術研究科、大学院工学研究科、未来科学部、工学部、工学部第二部

・鳩山キャンパス  
(埼玉県比企郡鳩山町石坂)  
大学院先端科学技術研究科、大学院理工学研究科、理工学部

・千葉ニュータウンキャンパス  
(千葉県印西市武西学園台2-1200)  
大学院先端科学技術研究科、大学院情報環境学研究科、情報環境学部

・小金井キャンパス 東京都小金井市  
梶野町4-8-1)  
中学校、高等学校

#### 総合メディアセンターご紹介

総合メディアセンターは東京電機大学のネットワークインフラの整備・運用と共用計算機の整備・運用など、計算機資源・視聴覚資源・図書資源に関する企画・整備を担う部門です。学内にある4学部の教員・学生・職員を等しくカバーし、全ての人が使用可能なインフラサービスの提供を使命に、5~6年ごとに実施するシステムの大きな入れ替えを考慮し、都度トレンドと必要要素を兼ね備えたシステムを取り入れる試みを行なっています。

